

11
預言者たち
聖徒伝 145

「これほどまでに
愛されている」

ホセア書10～12章

イスラエルへの神の愛

アウトライン

0. イントロダクション

I. 罪と裁きと大患難時代 10章

II. 裁きのただ中にある主の憐れみ 11章

III. ヤコブ・イスラエルを導く神

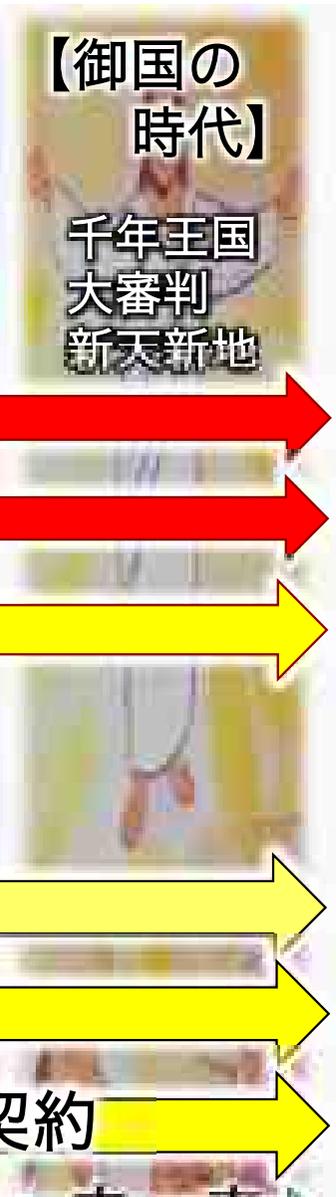
11章12節～12章

IV. まとめと適用

懲らしめや試練の中でも

主の愛をこそ味わい知ろう





【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

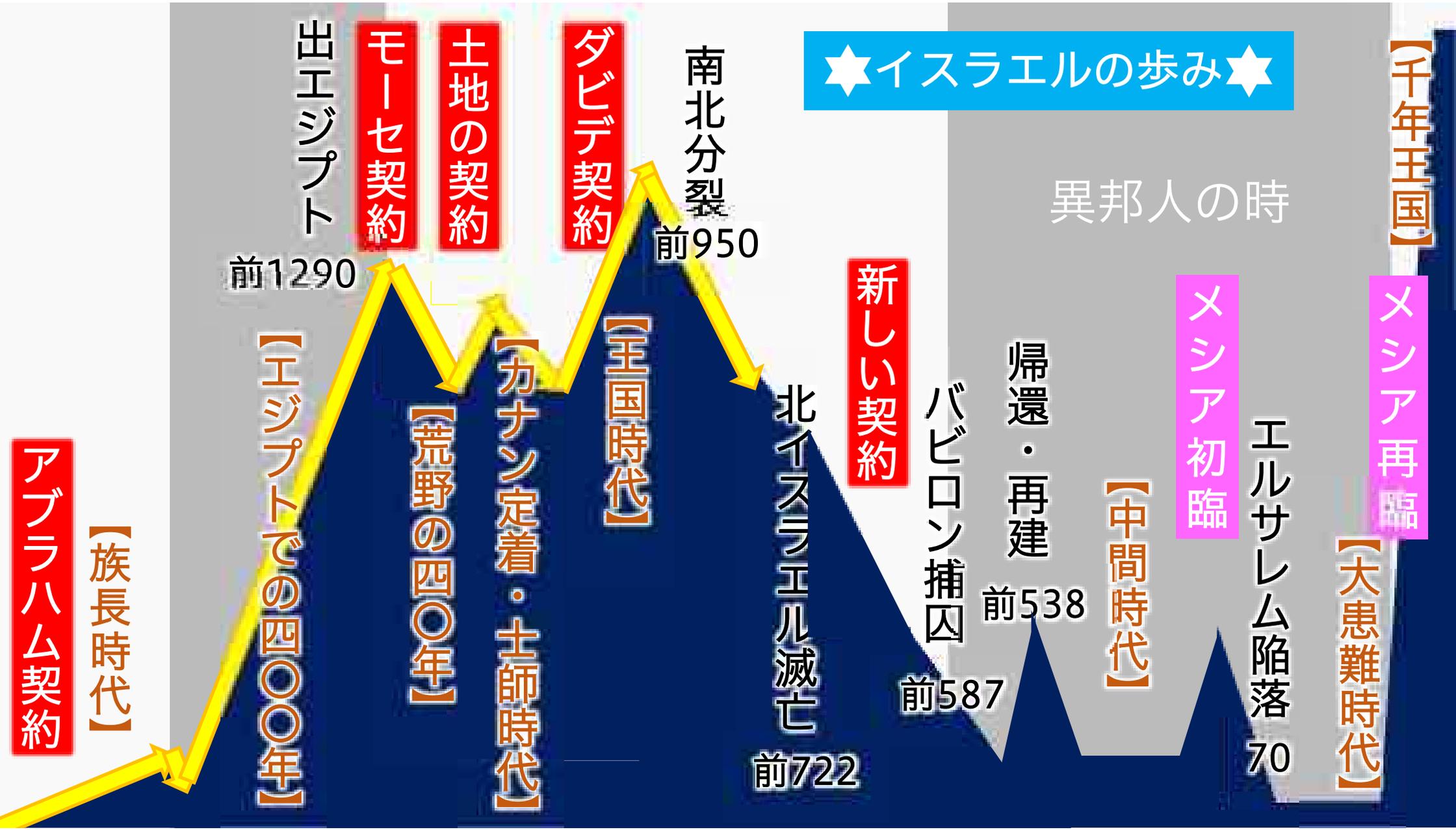
どの時代も
神の約束が礎にある

過去

現在

未来

★イスラエルの歩み★



ホセア書とは？

■ **著者** … **ホセア** = “主は救う”
父はベエリ = “我が満足” … 父も信仰者。

■ **出身・活動の場** … 北イスラエル

■ **時代** … ヤロブアム2世 (北王国) ~
(南は、ウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤ)

■ **背景** … 偶像崇拝に染まり、裁きは間近に!!



ホセアは身をもって、主の哀しみと憐れみ、永遠の愛を伝えた

ホセア書の構成

① 姦淫の女との結婚 (1~3章)

姦淫の女の不義と復縁、猶予期間へ

① 姦淫の罪

② イスラエルへの裁き (4~13章)

数々の姦淫の罪の告発。
一時的な回復もあるが、
終末まで根本的な状況は同じ。

② 懲らしめ・猶予

③ 終末の裁き

③ イスラエルの回復 (14章)

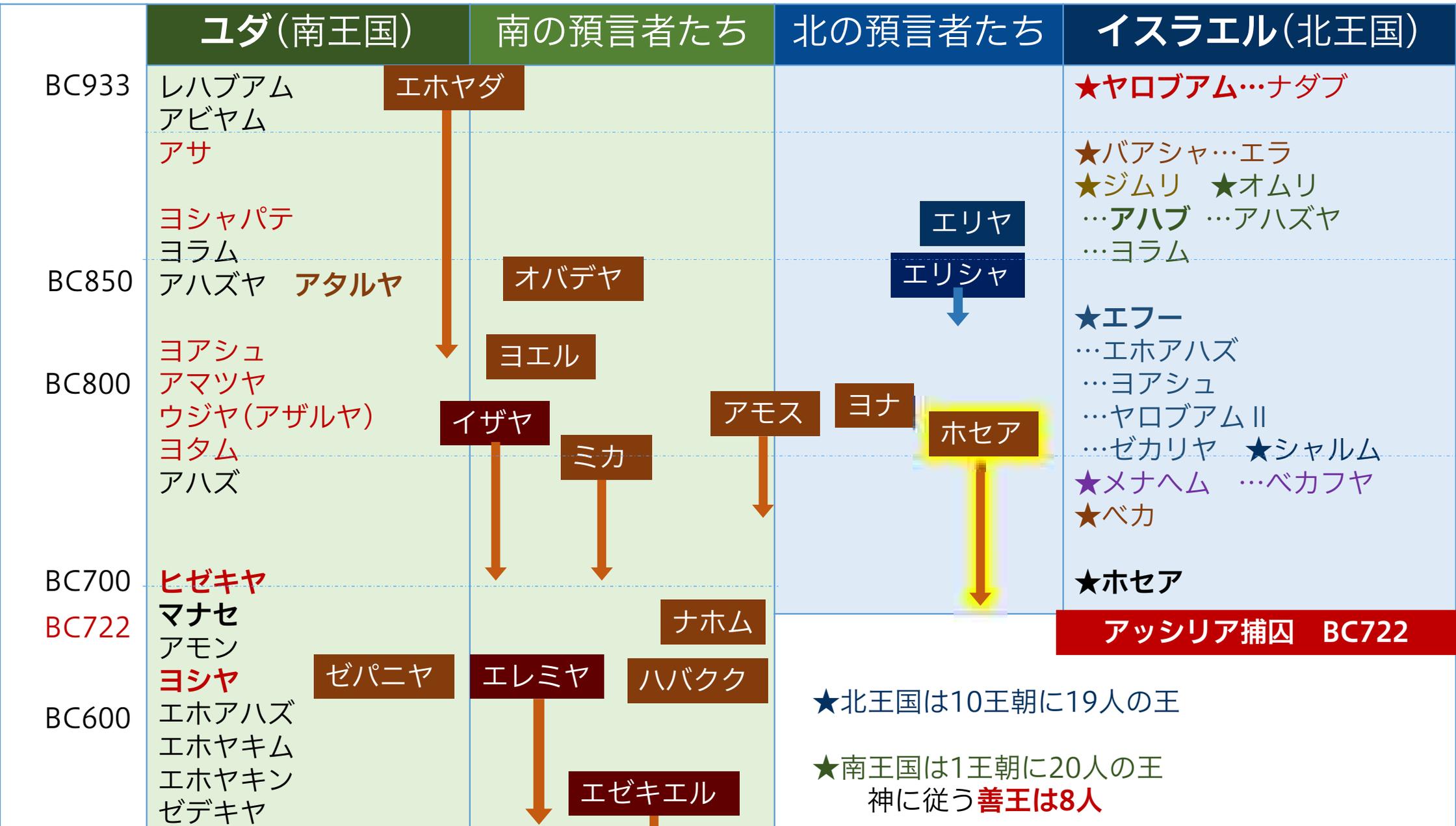
永遠に主の妻となる

④ 復縁・回復



【預言の内容は、神の目から見れば一つのこと】





★北王国は10王朝に19人の王

★南王国は1王朝に20人の王
神に従う善王は8人

北王国 イスラエル

南王国 ユダ

エリシャ

ホセア

【エフー王朝】

アモス

エフー

ベカ

20年

エホアハズ

アツシリア捕囚①

28年

ヨアシュ

17年

ヤロブアムⅡ

ゼカリヤ

6ヶ月

16年

ヤロブアムⅡ

41年

シャルル

1ヶ月

南北時代の最盛期

ヨナ

メナヘム

10年

混沌の時代

ヨアシュ♡

40年

アマツヤ♡

29年

ウジヤ♡

ウジヤ♡

ヨタム

ヨエル

52年

イザヤ

イスラエルのいろんな呼び名を確認しておこう

- ① **イスラエル** → ヤコブに神が与えた名。“神が勝利する”
= **イスラエル全部族**。もしくは、**北の10部族**を指す。
 どちらを指すかは、文脈で判断
- ② **ヤコブ** → 12兄弟の父ヤコブ。 = **イスラエル12部族**を指す。
- ③ **エフライム** → ヤコブ → ヨセフ → エフライムと**長子権**を継いだ。
= 北の最大部族。転じて**北王国**を指す言葉に。
- ④ **ユダ** → ヤコブの4男。**メシアにつながる一族**。最大部族。
= 南王国(ユダ族 + ベニヤミン族)の主流。**南王国**を指す。

北から南への移住者も多い。実際は12部族は入り混ざっている



Ⅰ. 罪と裁きと大患難

ホセア書10章

ハル・メギドとイズレエル平原

罪 偶像の祭壇 ホセア書10:1～2

イスラエルは生い茂るぶどうの木。それは多くの実をつけた。実が増えるにしたがって祭壇*の数を増やし、その地が豊かになるにしたがって石の柱*を豊かにした。彼らの心は偽りだ。今、彼らはその罰を受ける。主が彼らの祭壇を壊し、彼らの石の柱を踏みにじられる。



*偶像の祭壇

*偶像神の象徴 …律法も禁止(申16:21～22)

主がイスラエルを裁き、偶像礼拝を絶たれる



イスラエルのぶどう畑

罪 王はいない ホセア書10:3

今、彼らは言う。「私たちに王はいない*。私たちが【主】を恐れていないからだ。王がいても、私たちに何ができるだろうか。」

*イスラエルに、主に従う善王はいなかった。

→主の目に適う王はいなかった。

■裁きを目の前にして、真実の王を求めても遅い。

→王の不在を最も痛感させられるのは、
契約を結んだ偽の王・**反キリスト**の迫害に
さらされる大患難時代において



大患難 死の契約 ホセア書10:4

彼らは無駄口をきき、むなしい誓いを立てて
契約を結ぶ*。さばきは、畑の畝の毒草のよう
に*生い出る。

*アッシリアと契約を結んだ記録はない。

➔大患難時代に起こること!!

*勢いも頻度も、人の手には負えない。

■大患難時代の始まりは、イスラエルが
反キリストと**契約を結ぶ***こと。

(ダニエル9:27,イザヤ28:15)



大患難 偽りの栄光の喪失 ホセア書10:5～6

サマリアの住民は、ベテ・アベンの子牛*のことでおののく。その民はそのことで喪に服し、偶像に仕える祭司たち、その栄光を喜んでいた者たちも喪に服す。栄光が子牛から去ったからだ。

それはアッシリアに持ち去られ、**大王***への贈り物となる。エフライムは恥を受け、イスラエルは自分のはかりごとで恥を見る。

反キリストに頼り結んだ契約

*ベテル(神の家)に立てられた金の子牛

→ベテ・アベン(邪悪の家)の子牛と呼ばれる

*“ヤレブ王(競う者)” →反キリストを指す



大患難 主の日の災い ホセア書10:7～8

サマリアは滅び失せ、その王は水の面の木片のようだ。イスラエルの罪であるアベンの高き所は滅ぼし尽くされる。茨とあざみが彼らの祭壇の上に生い茂る。彼らは山々に向かって「私たちをおおえ」と言い、丘に向かって「私たちの上に崩れ落ちよ」と言う*。

苦しみ極まった中での叫び

*イエスが終末預言で引用 …ルカ23:30

→大患難時代の第六の封印の災い(黙6:13～)
大地震が起こり、太陽は黒く、月は赤く、
星は落ち、地形は激変する。



大患難 ハルマゲドン ホセア書10:9～10

「イスラエルよ。ギブアの日*以来、あなたは罪を犯してきた。そこで彼らは同じことを行っている。ギブアで、戦いがこの不法の民を襲わないだろうか。彼らを懲らしめることがわたしの願いだ。二つの不義*のために彼らが捕らえられるとき、諸国の民が集められて彼らに敵対する*。」

*レビ人の強姦未遂。愛人の暴行虐殺。聖絶の裁き。

*ギルガルとベテ・アベンか？

*ハルマゲドン…大患難時代の最終戦争。

大患難にイスラエルの2/3が死去。



イスラエルの二つの罪のルーツ

- ①ギルガル … ◆ ヨルダン川西岸の最初の宿営地。
◆ サウル王が祭司の主権を侵害し、**犠牲の動物**を捧げた。
◆ エリヤが預言者学校を築いたが、
後には、偽預言者たちの拠点に!!
◆ 偶像礼拝の祭壇が築かれた。

- ②ベテル(ベテ・アベン) … “神の家” “邪悪な家”
… ◆ アブラハム、ヤコブの礼拝の地
◆ ヤロブアムが**金の子牛**を築いた。
北王国の偶像礼拝の根源。

後の偶像礼拝の前兆



サマリア
ベテル
ギルガル
エルサレム

裁き 奴隷の使役 ホセア書10:11

エフライムは飼いならされた雌の子牛、
麦打ち場で踏む*ことを好む。しかし、
わたしはその美しい首にくびきを掛ける*。
わたしがエフライムに乗り、ユダ
が耕し、ヤコブが馬ぐわを引くように
なる。

*家畜には軽い労働。麦も食べられた。

*可愛がられた子牛が、外で重労働に。

➡イスラエルの民の捕囚と使役
待ち受ける過酷な試練を指す。



裁き 恵みと裁き ホセア書10:12~13

「あなたがたは正義の種を蒔き、誠実の実を刈り入れ、耕地を開拓せよ。今が【主】を求める時だ。ついに主は来て*、正義の雨をあなたがたの上に降らせる。」

あなたがたは悪を耕し、不正を刈り取り、偽りの実を食べた。それはあなたが自分の力に、自分の勇士の数に拠り頼んだからだ*。

*栄光のメシアの再臨、千年王国

*罪の根源は、主に頼らず自力に頼ること。



裁き 徹底した破壊 ホセア書10:14～15

あなたの民の中で戦塵が起こり、要塞はみな打ち滅ぼされる。戦いの日にシャルマン*がベテ・アルベル*を踏みにじったように、母親は子どもたちのそばで八つ裂きにされる。

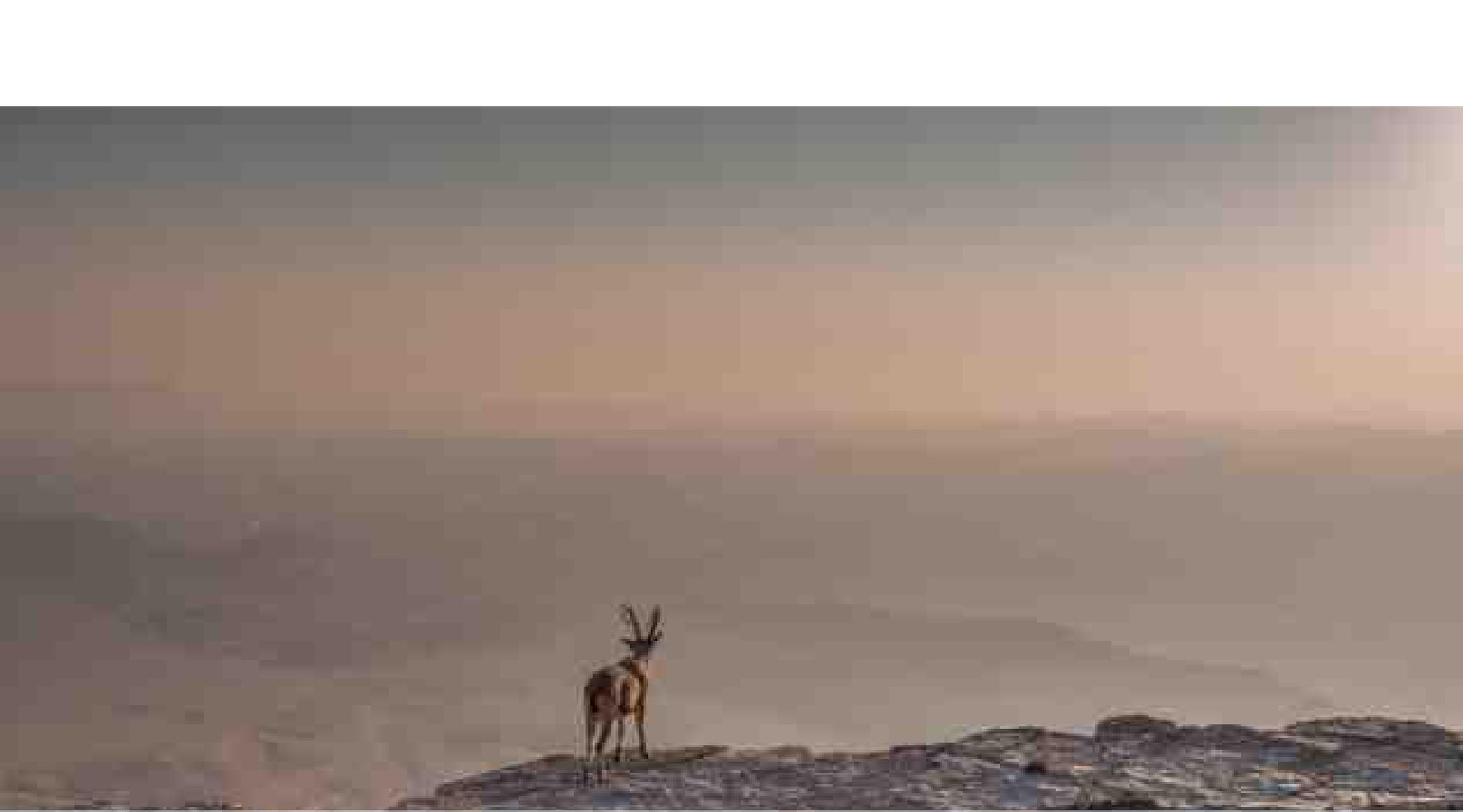
ベテルよ。あなたがたの悪があまりにもひどいので、このようなことがあなたがたになされる。夜明けには、イスラエルの王は全く滅ぼされる*。

*“火の崇拜者” * “神の伏兵の家”

➡アッシリアの侵略戦争からのイメージか？

*終末の大患難時代に、真の王の不在が極まる





II. 裁きのただ中にある主の憐れみ

ホセア書11章

ルーツ 荒野の民 ホセア書11:1～2

「イスラエルが幼いころ、わたしは彼を愛し、エジプトからわたしの子を呼び出した。

彼らは、呼べば呼ぶほどますます離れて行き、もろもろのバアルにいけにえを献げて、刻んだ像に犠牲を供えた。

- シナイ山の麓で金の子牛を拝んでいた民。罪を重ねた挙げ句、この世代の者は皆、40年の放浪の内に荒野で死に果てた。



ルーツ 民を癒やした神 ホセア書11:3～4

このわたしがエフライムに歩くことを教え、彼らを腕に抱いたのだ。しかし、わたしが彼らを癒やした*ことを彼らは知らなかった。

わたしは人間の綱、愛の絆*で彼らを引いてきた。わたしは彼らにとってあごの口籠を外す者のようになり、彼らに手を伸ばして食べさせてきた*。

*奴隷の身から解放され、神の民とされた。

偶像のエジプトから解放も偶像に捕らわれたまま

*家畜を人間用の綱で引く → 非常な優しさ。

*解放しただけでなく口元に食事まで与えた。

→ 天のパン・マナで民は養われた。

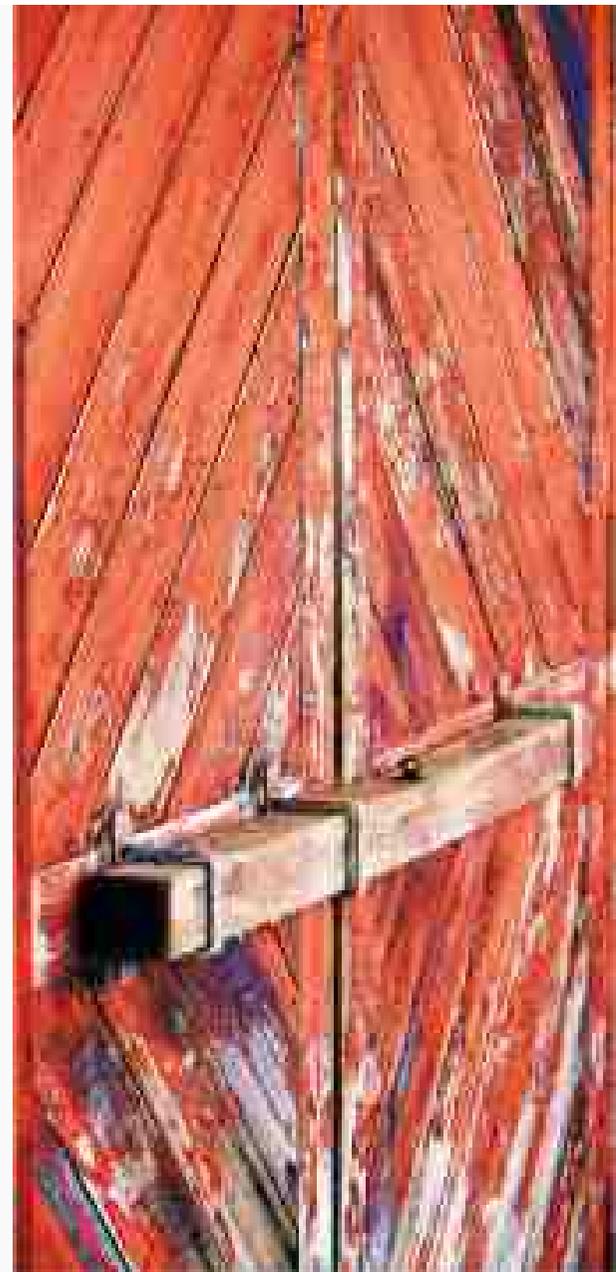


くつこ
口籠

裁き アッシリア捕囚 ホセア書11:5～6

彼はエジプトの地には帰らない。アッシリアが彼の王となる*。彼らがわたしに立ち返ることを拒んだからだ。剣は、その町々に対して荒れ狂い、かんぬきの取っ手を打ち砕き、彼らのはかりごとのゆえに、町々を食い尽くす。わたしの民は頑なにわたしに背いている。いと高き方に呼ばれても、ともにあがめようとはしない。

*アッシリア捕囚の宣告。



憐れみ 主の憐れみ ホセア書11:8

エフライムよ。わたしはどのようにしてあなたを引き渡すことができるだろうか。イスラエルよ。どうしてあなたを見捨てることができるだろうか。どうしてあなたをアデマ*のように引き渡すことができるだろうか。どうしてあなたをツェボイム*のようにすることができるだろうか。わたしの心はわたしのうちで沸き返り、わたしはあわれみで胸が熱くなっている。

*ソドム、ゴモラと共に滅ぼされた町。

➡主に背いたイスラエルも同様に(申29:23)



神の熱情 神の愛

憐れみ

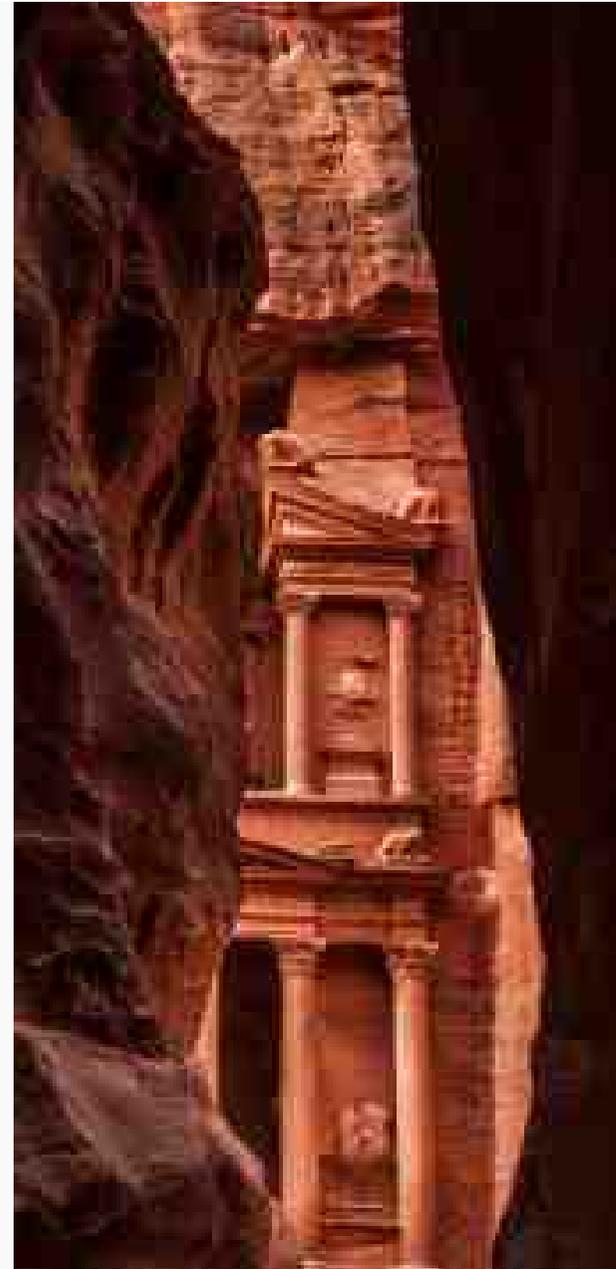
大患難時代の守り ホセア書11:9

わたしは怒りを燃やして再びエフライムを滅ぼすことはしない*。わたしは神であって、人ではなく、あなたがたのうちにいる聖なる者だ。わたしは町に入ることはしない*。

*大患難時代、イスラエルは熾烈な迫害の中でも主に守られ、滅びを免れる。

*逃れ場が与えられ、そこでは守られる。

➔大患難時代の後半、イスラエルは逃れた先のボツラ(ペトラ)で敵の手から守られる。



終末 集められる民 ホセア書11:10

彼らは【主】の後について行く。主は獅子のようにほえる。まことに主がほえると、子らは西から震えながらやって来る*。鳥のようにエジプトから、鳩のようにアッシリアの地から、彼らは震えながらやって来る。わたしは彼らを自分たちの家に住ませよう。——【主】のことば。

■ 不信仰のままのイスラエルの帰還。

➔ 大患難の裁きのための一時的な帰還*。



Ⅲ. ヤコブ・イスラエルを導く神

ホセア書11章12節～12章



猶予 ユダの忠実 ホセア11:12

「わたしは、エフライムの偽りと、イスラエルの家の欺きで囲まれている。しかしユダは、なお神とともに歩み、聖なる方に対して忠実である。」

- 北の王ヤロブアム二世と民が主に背く一方、南のウジヤ王は、主に従う善王だった。
- 度々、偶像礼拝にも陥った南王国だが、善王も出て、民も悔い改めに導かれてきた。
→ 南王国には、まだしばらく猶予がある。



裁き 虚しいエフライム ホセア書12:1~2

エフライムは風を飼い*、一日中、東風*の後を追う。重ねるのは虚偽と暴行。アッシリアと契約を結び、エジプトに油を送る*。【主】には、ユダに対して言い分がある*。主は、生き方に応じてヤコブを罰し、行いに応じて彼に報いる。

*むなしさの象徴

*東の砂漠からの熱風。草を枯らし乾季をもたらす。

*大国に媚びへつらうだけで、混乱した外交。

*この時点の南王国は、善王ウジヤの治世。



ルーツ ヤコブ ホセア書12:3～4

ヤコブは母の胎で兄のかかとをつかみ、その力で神と争った*。御使いと格闘して勝ったが、泣いてこれに願った。ベテルでは神に出会い、神はそこで彼に語りかけた。

*ヤコブ＝“かかとをつかむもの”

■主に委ねきれず、“自力で祝福を得ようとした”

それが、ヤコブの失敗の原因。

→ヤボク川で、“必死に主にすがりついた”

信仰を認められ、イスラエルと名づけられた。



宣言 主の性質 ホセア書12:5～7

【主】は万軍の神。その呼び名は【主】。

あなたは、あなたの神に立ち返り、誠実と公正を守り、絶えずあなたの神を待ち望め。

商人は手に欺きの秤を持ち、虐げることを好む*。

* 経済的繁栄を極めた北王国では、富の不均衡が拡大する一方で、搾取も横行していた。

■ 誠実・公正は、神の民に求められた重要な資質。

「レビ 19:36 正しい天秤、正しい重り石、正しい升、正しい容器を使わなければならない。」



裁き 繁栄の奢り ホセア書12:8～9

エフライムは言った。「確かに私は富んでいる。私には力がある。私のすべての勤労の実があれば、私のうちに、罪となる不義は見つからない*。」

「しかしわたしは、エジプトの地にいたときから、あなたの神、【主】である。例祭の日*のように、再びあなたを天幕に住まわせる*。」

* 極端な経済第一主義に陥っていた北王国。

→ 経済的に繁栄していれば正義

* 荒野の日々を覚える仮庵祭。仮小屋を建てる。

* 虜囚の流浪の日々がやってくる。



裁き 預言者たち ホセア書12:10～11

「わたしは預言者たちに語ってきた。わたしが多くの幻を示し、預言者たちによってたとえを示したのだ。」

ギルアデ*は不法そのもの。いや、彼らはむなしのものとなった。ギルガル*で雄牛が献げられたが、その祭壇も、畑の畝の石くれの山になる。

*ヨルダン川東岸…強く偶像礼拝の影響を受けた。

*サウル王が戴冠し、預言者学校もあった地。

サウルが祭司の権利を侵して犠牲をささげた。



ルーツ ヤコブの逃亡 ホセア書12:12

ヤコブはアラムの地*に逃げて行き、イスラエルは妻を迎えるために働いた。妻を迎えるために羊の番をした。

■ ヤコブは、怒るエサウから逃れたバダン・アラムでおじラバンの下で働き、レアとラケルを妻とした。

*北方のシケムに逃げたヤコブと、北方の帝国アッシリアの虜囚となる北王国の姿が、重ね合わされている？



裁き 一人の預言者 ホセア書12:13~14

【主】は一人の預言者*によって、イスラエルをエジプトから連れ上り、一人の預言者*によって、これを守られた。エフライムは主の激しい怒りを引き起こした。彼の主は、その血の責任を彼の上に下し、彼のそしりに報いを返される。

*モーセが告げた「一人の預言者」 →メシア

「あなたの神、【主】はあなたのうちから、あなたの同胞の中から、私のような一人の預言者をあなたのために起こされる。あなたがたはその人に聞き従わなければならない。申 18:15」



メシアが
イスラエルを
守り、裁かれる

IV. まとめと適用

懲らしめや試練の中でも
主の愛をこそ味わい知ろう



ホセア書11章8節

「エフライムよ。

わたしは どうして あなたを引き渡すことができるだろうか。

イスラエルよ。 どうして あなたを見捨てることができるだろうか。

どうしてあなたを アデマのように引き渡すことができるだろうか。

どうしてあなたを ツェボイムのようにすることができるだろうか。

わたしの心は わたしのうちで沸き返り、

わたしは あわれみで胸が熱くなっている。」

裁きの背後にある主の愛をこそ知ろう

「ホセア11:8 わたしの心はわたしのうちで沸き返り、
わたしはあわれみで胸が熱くなっている。」

「私の心は叫んでいる。なんとしても、お前たちを助けたい。」

(リビングライフ訳)

■ 義なる神は、罪人と悪を罰せないではおられない。

愛の神は、愚かな民を憐れみ、忍耐し、救い出そうとされている。

➔ 神の義と愛の究極の答えが、子なる神、メシアの十字架の犠牲。
主イエスが、神の怒りを杯を飲み干され、罪の身代わりとして、
ご自身を十字架にかけられた。

モーセが身をもって示した神の愛

出 32:32 「今、もしあなたが彼らの罪を赦してくださるなら——。しかし、もし、かなわないなら、どうかあなたがお書きになった書物から私の名を消し去ってください。」

■ 永遠の滅びも覚悟して、民の赦しを訴えたモーセへの神の答え。

出32:33～44 「わたしの前に罪ある者はだれであれ、わたしの書物から消し去る。しかし、今は行って、わたしがあなたに告げた場所に民を導け。見よ、わたしの使いがあなたの前を行く。だが、わたしが報いる日*に、わたしは彼らの上にその罪の報いをする。」

(*最終的な裁き・大患難時代)

一方的な主の憐れみに生かされているのが、イスラエル

パウロが身をもって示した神の愛

「ロマ9:2～3 私には大きな悲しみがあり、私の心には絶えず痛みがあります。私は、自分の兄弟たち、肉による自分の同胞のためなら、私自身がキリストから引き離されて、のろわれた者となってもよいとさえ思っています。」

■ モーセ同様、永遠の滅びも覚悟して同胞の救いを願ったパウロ。

ロマ9:15～16 『わたしはあわれもうと思う者をあわれみ、いつくしもうと思う者をいつくしむ。』ですから、これは人の願いや努力によるのではなく、あわれんでくださる神によるのです。」

■ イスラエルの個々人の救いは、個々の信仰によるもの。

イスラエルの救いは、究極的には神のあわれみにかかっている。

聖徒たちが身をもって示した神の愛

■ モーセ、パウロが示した、永遠の命すら惜しまない愛に圧倒される。預言者たちも、ホセアも、神の愛に立ち、惜しまず命をささげた。

■ 娶った姦淫の女を、ホセアは全身全霊で愛しただろう。妻の不貞を悲しみ嫉み、なお愛し、赦して、闇の中から救い出した。

■ 聖徒たちが示した愛の大きさに、身も心も揺り動かされる。まさしく彼らは、主の愛を、その身をもって証しした。

■ 罪のただ中にいた私のために、神のひとり子主イエス・キリストは、十字架にかけられ、葬られ、死を打ち破って復活された。ここに、史上かつてない、真実の愛がある。

ローマ人への手紙5章6～8節

実にキリストは、私たちがまだ弱かったころ、定められた時に、不敬虔な者たちのために死んでくださいました。

正しい人のためであっても、死ぬ人はほとんどいません。
善良な人のためなら、進んで死ぬ人がいるかもしれません。

しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれたことによって、神は私たちに対するご自分の愛を明らかにしておられます。

★ 主の愛を証しする者へと変えられていこう ★

■ 神の業のすべては完全な義と愛に基づく。大患難時代すらも愛の業。最後の希望の時代に、主の厳しい懲らしめが救いに至る道筋となる。

■ 永遠の命を賭けた聖徒の祈りに、思い知らされる自分のちっぽけさ。そんな私にも、主はキリストの似姿への日々の変化を求めている。自力でできることはない。きっちり打ち砕かれて、新たにされよう。

■ ホセアが必死に伝えたのは、はかりしれない神の愛の大きさだ。御言葉を通し、適用する日々を通して、主の愛を味わい知ろう。

**途方もない神の愛に日々打ち砕かれて、
神の愛を生きる者へと変えられていこう**

「天のお父さま。わたしは、あなたに背き、罪を重ねてきました。

わたしは、まぎれもない罪人です。この罪をゆるしてください。

わたしは、神のみ子イエス・キリストが、

①わたしの罪を贖うために十字架で死に、

②墓に葬られ、

③三日目に復活したこと、を信じます。

途方もない主の愛に打ち砕かれ、新しい命を生きる者とされました。

永遠の命さえ惜しまず、民のために祈った聖徒たちを思います。

私にも、キリストの似姿として歩むことを、主は求めておられます。

私にはできません。聖霊の御力によって変えてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」